

ンガードは又、平時にあつては、青年部、組織部等と連絡し、未組織労働者の組織、失業者の組織等の組合の不断的事業に活動する。

五 青年部

一 青年部の任務と立場

一 組合に組織された労働青年は二つの方面の任務を有つ。その一つは労働青年「獨自」の任務であり、他の一つは組合運動全般に対する任務である。而してそれ等は、各自独立の存在ではなくして、単一的存在の二面に過ぎない。狭きすれば、それ等の一方は、他の一方、遂行なくして実現されるものではないのである。この不可分の関係性に対する認識の不足が、今日まで謂ゆる「青年獨自の立場」にこだわつて運動上の誤謬を生む一つの原因となつて来た。

ニ 労働青年独自の任務とは、謂ふまでもなく、資本の特殊的重搾取の犠牲となつてゐる現在の青年労働者のその特殊の搾取徹脱の爲の闘争である。この点に關しては、労働青年は幼年労働者及び（廣義に於ては）婦人労働者の立場をも代表する。組合青年部がその婦人部と特に近親關係に立つ所以は茲にある。

三 組合運動全般に對する任務とは、俗に謂ゆる青年の身軽さを以て組合戦線

の前衛を引き受けると共に、運動全般を常に活発ならしめる役割である。然しながら、この方面の任務は明らかに青年「獨自」のものではない。たゞ青年はその本質上、この方面に於て特に適切なる活動場面を與へられてゐるといふに過ぎない。それが故に、この運動の部分をも青年独自の任務であるから如くに取扱つて、それを青年部のみに関付けることは誤謬である。

またこの方面に於ける今日迄の誤謬は一方青年の役割をばピラ撤きボスター胎り等の單なる労働關係の前衛行動のみに限らんとした傾向と、他方、運動一般より概然として頭角を顕はすことが前衛の任務であるから如くに誤解し、運動全般の歩調を無視して、突進的に前進せんとした傾向とである。前者は青年の能力と役割との過小評價であり後者は運動の部分と全体との関係性に対する無智である。

四 青年独自の運動と組合運動全般との関係性は、譬へば、失業問題における如くである。失業軍の増大は、直接に、従業労働者の労働条件の低下を意味するが故に、失業及対闘争は失業者と従業労働者との共同闘争であり扱けならぬ如くに、未丁年労働者の二重的搾取は成年労働者の労働条件低下或は失業を意味するを以て、青年労働者「獨自」の闘争は、直ちに成年労働者の闘争でなくてはならない。運動のかゝる不可分性の正しき認識は當然青年の要求貫徹に對する成年労働者の積極的奮起を促す。